

# 事業完了報告書（実行団体）

Version 3.2

日付： 2022年3月14日

事業名:	困窮する子育て世帯への切れ目ない応援事業
資金分配団体名:	一般社団法人SINKa
実行団体名:	特定非営利活動法人チャイルドケアセンター
実施時期:	2022年7月～2022年2月
事業対象地域:	福岡県
事業対象者:	妊産婦・乳幼児を含む子どもとその保護者

## I. 事業概要

事業実施概要	<p>子育て支援は生まれる前から始まっていると考え、産前産後ケア、コロナ対策を講じた子どもの居場所づくり、コロナ禍で一層困難を強いられる保護者の就労等への相談事業を実施する。コロナ禍において社会的に弱い立場にある子ども及び保護者の状況が一層厳しい状況に置かれていることから、産前からの母子父子支援を切れ目なく行い、虐待に発展する状況に陥ることがないように体制を整え、児童虐待、子どもの貧困などと無縁な社会づくりに貢献することを目的とする。</p> <p>事業①産前産後支援 助産師による妊産婦に訪問ケアや育児相談、乳幼児の父親、母親に命の話（性教育）を行った。</p> <p>事業②子どもの居場所の拡充 子どもたちに対して家庭ではできない体験プログラム「お茶の会」（茶道）「ごはん塾」（お米の研ぎ方、だしの取り方など）「科学の教室」（飛行距離の長い紙飛行機づくりなど）を行った</p> <p>事業③支援者の育成 子育て支援向けの講座を開催</p> <p>事業④相談事業 公認心理師（スクールカウンセラー）によるカウンセリングを実施</p> <p>事業⑤女性活躍推進事業（就労支援） 就労支援セミナー、就労相談を実施</p>
--------	---

## II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>産前からの母子父子支援を切れ目なく行うという当初の一連の事業を実施することができ、各々の事業の相乗効果により厚みのある支援となったと考えている。特に産前産後の支援や相談事業についてはコロナ禍で孤立しがちな母子父子の育児不安の解消に大きく貢献できた、また支援者の育成についてもコロナ禍でストレスが増加している支援者のスキルアップを行うなど、悩みを共有することで支援の継続につながった。一方、断続的な新型コロナウイルスの緊急事態宣言に伴い、こども食堂の開催が見送られるなど、想定された環境での事業が行えなかったという反省もある。</p> <p>個別事業での特記事項は以下の通り。</p> <p>事業②子どもの居場所の拡充 計画ではこども食堂の開催場所で体験プログラムを実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響でこども食堂の開催が見送られた。体験プログラムを単独で開催した。</p> <p>事業④相談事業 子どもたちや保護者の相談に専門家が対応できるように公認心理師、保育士、弁護士と連携し、準備はしていたが、弁護士、保育士が対応する相談はなかった。事業の広報期間が不足し想定した対象者にリーチできなかった。</p> <p>事業⑤女性活躍推進事業（就労支援） 広報が上手くいかず、想定した対象者にリーチできなかった。</p>
-------------------	--

## III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
生活困窮者	相談先の不足	子育て世帯の父親、母親の育児不安、孤立感の解消	事業実施を通じて、育児不安、孤立感を抱える父母の割合低下につなげる	支援後に「育児不安がある」「孤立感がある」と回答した父母の割合が0%	事業①活動回数50回 育児相談、訪問ケア 事業④活動回数27回 公認心理師が対応するカウンセリング	事業①④ 受益者：子育て中の父親、母親、妊産婦 課題：育児不安や孤立感 事業①産前産後支援：コロナ禍で里帰り出産や実家の支援を受けられないケース増加している中、孤立しがちな産前産後の母親や父親を支援し、育児不安解消につながった 事業④相談事業：コロナ禍で学級閉鎖、休校、休園、在宅ワークなど自宅で過ごす時間が増え、家族間でストレスが溜まっている。また、休校が繰り返されることで生活のリズムが狂い、不登校に発展するケースも増えた。
子ども・学生	学習機会の不足/格差	子どもが安心できる場の創造	事業実施を通じて、子どもが安心して過ごすことができる場を創造する	支援後に「こども食堂は安心して過ごすことのできる場所」と回答した子ども、保護者の割合が100%	事業②活動回数26回 「お茶の会」「ごはん塾」「科学の教室」など家庭ではできない活動を体験した	事業②子どもの居場所の拡充 コロナの影響によりこども食堂の開催が見送りになった。こども食堂が行われなかったため、別途、子どもたちに声掛けし、体験プログラムを告知した。子どもたちは家庭では得ることのできない知識を深め、多様な活動を体験できた
生活困窮者	就業困難	母親のキャリアアップ及び就労状況の改善	事業実施を通じて、子育て世帯の母親のキャリアアップ及び雇用状況の安定を実現する	支援後に「現在の就労状況（賃金、勤務形態、職場環境）に満足している」と回答した者の割合が100%	事業⑤活動回数30回 就労相談、就労支援セミナーを開催	事業⑤ 受益者：子育て中の女性 思うように告知ができずに、対象者に情報が届かなかった。就労支援セミナーを受講した女性からは「就職活動の第一歩が踏み出せそう」「動くきっかけになった」などの感想をいただいた
中間支援者	学習機会の不足/格差	子育て支援者の育成	事業実施を通じて、子育て支援者のスキルアップを行う	事業実施後に「子育て支援への不安が減少した」と回答する方が100%	事業③活動回数68回 子育て支援者のスキルアップをを目的とした保育士や公認心理師による講座「保育塾」を開催	事業③ 課題：子育て支援者の学びの場の不足や支援に対する不安解消 コロナ禍で子どもたちや父親、母親もストレスが溜まっているが、その支援を行っている支援者もまた、ストレスが溜まってきている。支援者のスキルアップを行い、悩みを共有することで支援の継続につながった

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）\*

事業実施以降に目標とする状況	産前産後ケアや子どもの居場所の拡充、保護者の就労支援などの事業により、子どもや保護者が孤立することなく、社会的ネットワークを広げ、多世代及び多様な人々の地域全体で子どもを育てる社会を目指し、コロナ禍においても児童虐待の防止と早期発見が可能になり、児童虐待、子どもの貧困などとは無縁な社会の実現を目標とする。
考察等	<ul style="list-style-type: none"> <li>■アプローチの方法として、事業対象者に5つの事業の担当者から対象者に告知していただき、当法人のホームページ、SNS、役所にチラシをおかせていただくなどした。</li> <li>■事業の進捗については4期に分けて、期末に事業の進捗と予算の執行状況を確認した。各事業の担当者との連携がスムーズに行かなかった部分もあったが、各事業報告書を元に計画の見直しを行った。</li> </ul>

V. 活動

活動	進捗	概要
①産前産後支援	計画通り	活動回数 50回 課題：育児不安の解消には大きく寄与できたと思うが、育児の悩みは子どもの成長と共に変化していくので、発達段階に応じた支援が必要。
②子どもの居場所の拡充	計画通り	活動回数 26回 課題：参加の子どもたちや保護者からはまた参加したいと感想をいただいたが、継続のための講師への謝金の確保が懸念される。
③支援者の育成	計画通り	活動回数 68回 課題：地域の子育て支援者が継続して活動できるようにスキルアップやメンタルサポートを継続して行うことが重要である。
④相談事業	計画通り	活動回数 27回 課題：カウンセラーと信頼関係が構築され、より深い相談を受けることができたが、事業終了後のクライアントの精神的な不安が懸念される。
⑤女性活躍推進事業（就労支援）	計画通り	活動回数 30回 課題：「就労支援セミナー」の形で行うと参加のハードルが高いため、座談会形式で悩みの共有から行って行くことが将来の就労に対する不安の解消につながるということがわかった
全体		参加者アンケートで97%の方に気持ちの変化が見られた。今後の活動の継続のために資金面での懸念が残る。
		継続のための予算確保

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<p>事業①産前産後支援事業では助産師による、育児講座（性教育）に母親だけではなく、父親の参加もあった。父親が、娘を育児する中で起きる課題など父親目線の切り口で講座を展開した。</p> <p>事業②コロナ禍で子ども食堂の開催が行われず、予定の事業②子どもの居場所拡充（体験プログラム）を子ども食堂内で行うことができなくなった。別途、子どもたちに告知し、体験の場を設けた。</p> <p>事業⑤女性活躍推進事業の就労支援セミナーをオンラインと対面で行ったが、オンライン（zoom）の方法がわからない方が複数いることがわかった。2歳くらいのお子さんを持つ保護者はコロナ禍の新しい生活様式が始まった頃に出産で社会との関りを立った方が多くいて、育児のみの生活でオンラインの方法に慣れていられない方がおられ、オンラインでつながる方法からレクチャーが必要とされていることがわかった。</p>
---------------------	---

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<p>事業全体の参加者の97%に気持ちの変化がみられた</p> <p>事業①コロナ禍で遠方に住む家族の支援が受けられないケースがあり、ますますの孤立感で育児不安が増加している。「心が折れそうです」と悲痛なメッセージをいただき、助産師の支援で安心し、育児不安の解消になった。</p> <p>事業②お茶の会・ごはん塾・科学の学校の実施により、子どもたちが安心安全な居場所で家庭ではできない活動の体験ができた</p> <p>事業③長期化するコロナ禍で子どもたちや保護者が、大きなストレスを抱えたり、疲弊したりしている。同様に支援者に負担がのしかかっている。「保育塾」の受講により、課題解決ができ、悩みの共有により、支援を継続できるモチベーションアップを図ることができた。</p> <p>事業④コロナ禍で悩みがより深刻になった。「学校に行きたくない」「友達関係で悩みがある」など子どもや保護者からの相談に対応した。公認心理士との信頼関係も深まり、相談者は安心して相談し、気持ちが明るくなったと感想をいただいた。</p> <p>事業⑤就労支援セミナーを開催した。子育て中の女性が参加し、受講後、「仕事探しの方法がわかった」「何か始めたいと思った」などの感想があった。</p> <p>※参加者アンケートをもとに筑紫女学園大学人間科学部 大西良氏に分析評価を依頼中</p>
-----------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
つみき助産院	事業①産前産後支援事業（助産師）
iroiro-company	事業②③④保育士、公認心理師、茶道准教授、元JAXA従事者
キャリアコンサルタント	事業⑤キャリアコンサルタント（元ハローワーク職員）

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	4,821,250	4,821,508	100.0%
	管理的経費	1,109,600	1,109,721	100.0%
合計		5,930,850	5,931,229	100.0%
補足説明				

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	ありません
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	チラシ 5種類 総部数 500枚 資料の添付あり
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	当法人ホームページ、及び上記チラシへの掲載
4.報告書等	アンケート調査報告書

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 （実施予定の場合含む）（複数選択可）	<input type="checkbox"/> 外部監査	団体の監事による監査を実施予定（本年6月予定）
	<input checked="" type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	